

## 地域におけるふれあい推進について

藪原・ふれあい推進グループ  
代表 小木曾担当区・瀬林 智

はじめに

近年、地球的規模での環境問題を背景として、緑に対する国民の関心が高まる中で藪原営林署では、業務方針で『地域とのふれあい推進』を掲げ、次のような行事を積極的に開催し、地域とのふれあいを図ってきた。

### 1 平成三年度実施行事

表-1

## 平成3年度行事一覧表

行 事	実 施 日	対 象 者	人 員	開始年度
新入生へ苗木配布	4 / 1	小中新入生	約160	S. 53
植 樹 祭	5 / 9	一 般	約150	
二 十 歳 の 樹	5 / 26	小学5年生	73	H. 2
修学旅行森林教室	5/23~5/25	千葉県中学生	約200	S. 56
山の幸フェア	7 / 4~5	一 般	約600	S. 62
国有林材PRフェア	10 / 5~7	一 般	約2,000	H. 1
親子の体験林業	4/29~10/6	親子10組	約30	H. 3

この表は、藪原営林署で平成三年度に実施した地域とのふれあいを深めた行事の一覧表である。

- (1) 木祖村と奈川村の小・中学校の新入生に、サツキ・コウヤマキの苗木を入学式に配布した。

- (2) 植樹祭は、木祖村と合同で5月9日に実施した。
- (3) 二十歳の樹育成事業は、西暦2000年に二十歳になる子供達に、緑に対する知識と愛着を持ってもらうため、木祖村の木でもあるトチノキの種蒔きを平成2年に実施し、床替えを今年5月26日実施した。
- (4) 修学旅行の森林教室は、千葉県の中学生を受入れ、5月23日～25日に実施した。
- (5) 山の幸フェアは、JR藪原駅前で7月4～5日に実施した。
- (6) 国有林材PRフェアは、藪原営林署主催で村民センターで10月5～7日、実施した。
- (7) 親子の体験林業は、4月から10月までの間に6回シリーズで実施した。

## 2 親子の体験林業

今回は、この中で親子の体験林業について発表する。

親子の体験林業は、藪原営林署として初めての試みでしたが、次代を担う小学生に植え付けから保育までをシリーズとして体験させることにより、緑の偉大さ、素晴らしさを再認識してもらい、親子で汗を流すことにより、親子の連帯感、絆を深める事を目的とした。

表-2

### 親子の体験林業計画表

体験項目	実施予定日	予備日	内容
しいたけ等の栽培作業	4月29日 (おどりの日)	---	1 楢木の玉切り 2 駒菌打ち
植え付け	5月6日 (振替日)	12日 (日)	1 植え付け 2 標柱の設置 3 山菜狩り(タラの芽)
下刈り	6月23日 (日)	30日 (日)	1 下刈り作業 2 ハチの巣対策 3 山菜狩り(フキ、ミナ)
除伐	7月21日 (日)	28日 (日)	1 除伐作業 2 ミステリーサークル 3 カモシカ被害
間伐	8月4日 (日)	11日 (日)	1 除伐Ⅱ類作業 2 ハイキング(木曾川緑道) 3 昼食(焼肉パーティ)
森林浴	10月6日 (日)	13日 (日)	1 ハイキング(赤沢) 2 終了式 3 記念品

この親子の体験林業は、この表のように4月から10月までの間に 1) しいたけ等の栽培作業 2) 植え付け作業 3) 下刈り作業 4) 除伐作業 5) 間伐作業 6) 森林浴 を6回シリーズとして計画し実施した。

### (1) 実施経過

実行体制・実施要領として

- ① 経営課長をキャップとし、造林係、各担当区主任をメンバーとしたプロジェクトチームを構成して実施する。
- ② 木祖村小学校5年生の親子10組20人を対象とする。
- ③ 土曜日、日曜日、祝日、夏休み等を活用する。
- ④ 作業は2時間程度とし、レクリエーションを組む。
- ⑤ 災害保険に加入する。

こととし、学年主任及び父兄会において説明し募集した。

その結果、多数の親子が希望されたので、やむなく抽選で10組の親子を決定した。

#### ア しいたけ等の栽培作業



写-1 しいたけ等の栽培作業

4月29日のみどりの日に、合同担当区事務所前で実施し、6回シリーズの初回と言う事もあり署長の挨拶、担当者・参加者の紹介をして、注意事項の後しいたけ及びくりたけ栽培作業に入った。

子供達が楢木を運び、親が電気ドリルで穴を開け、クリタケとシイタケの駒を打ちましたが、子供達は途中から穴開けに興味を持ち、電気ドリルでの穴開けを手伝い、用意した300本の原木も2時間程で終了した。

参加した親子に3本ずつ持ち帰って頂いた。

#### イ 植え付け作業

ゴールデンウィークの最終日である5月6日の日曜日に、現在建設中の味噌川ダムが眺望できる小木曾国有林で行った。子供達は木を植えることが始めてであり、鋤を思うように使えず親の手を借りたりしてなんとか親子でヒノキの苗を50本植え、記念に標柱を建てた。



写-2 植え付け作業

その後森林教室を行い、針葉樹と広葉樹の違いや、天然林と人工林の違いを勉強し、レクリエーションでタラの芽の採取をした。

#### ウ 下刈り作業

長い梅雨のため延び延びになっていましたが、7月21日に小木曾国有林で行った。

下刈りの目的とハチ刺され対策を説明し作業に入りました。子供達は傾斜地のた

め、歩くのが精一杯で親に歩き方や鎌の使い方を教わり、汗をかきながら一生懸命やっていた。刈り払った後を見て『小さい木が涼しいそうだね』と言っていたのを聞き、少しは下刈りの大切さを理解してくれたものと思われる。



写-3 下刈り作業

#### エ 除伐作業

日程の都合で間伐作業と一緒に9月1日に実施した。



写-4 ミステリーサークル

除伐作業は、植えた木に太陽をあてるため灌木を切る親の姿を見て、簡単簡単と言ったものの自分でやってみると、そう簡単にはいかなかったようであった。作業地は、対岸から良く見える場所であり、ミステリーサークルの形にした。

昼食は焼き肉パーティとしましたが、皿や箸は現地の木やフキの葉を利用し、食事をとりながら和気あいあいのうちに、親睦を深めた。

食事の後川遊びをしてから、清らかな水が流れている木曾川の源流地点に行き、緑のダムの大切さを再確認した。

#### オ 間伐作業

午後は間伐作業で、除伐と間伐の違いを大根の間引きを例に説明し、間伐の大切さを知ってもらい何本も切った。

#### カ 森林浴

上松署の協力をいただき、10月13日に赤沢自然休養林で、終了式を兼ねて行った。

終了式は、簡単に経過報告をして、斜め輪切りにしたキハダにしたための終了証を手渡した。



写-5 赤沢自然休養林で森林浴

その後休養林内を林鉄に乗り、木曾五木の違いや木曾ヒノキの更新の仕方を聞き

ながら森林浴を楽しみ、最後に全員で記念撮影をして6回シリーズの親子の体験林業を終了した。

## (2) 実施結果

全日程が終わった段階で、反省会や参加者からのアンケートを集約すると、

### (参加者の声)

- ア 親子で貴重な体験ができ、おいしい空気と澄んだ空を見て、自然の素晴らしさを再確認できた。
- イ 親子で汗を流した作業の中で、我が子のもう一つの姿を垣間見たと同時に、働く親の姿を見たりして、親子の絆が深まった。
- ウ 自然の雄大さ、林業の大切さが分かった。
- エ 半日の日程が、子供達の体力に合っており、適当であった。
- オ 6回の作業の中で、道具を使うことにより、営林署の仕事の内容が多少なりとも理解できた。
- カ ミステリーサークルは、規模が大きくて良かった。
- キ レクリエーションを取り入れたことにより、各作業とも楽しみで参加できた。
- ク 自分の山に愛着を持ち、手入れする気持ちになった。
- ケ 子供達が、作業を通じてわがままをいわず我慢することが身に着き、忍耐力が養われ、将来社会生活に役に立つと思った。

### (営林署の成果)

- ア 回を重ねるごとに10組の親子と親しくなり、大いに地元の皆さんとのふれあいが深まった。
- イ 祖父や兄が親交わりで参加し、弟妹も一緒に参加してくれ、親子と同時に、家族の絆も深まったと思う。
- ウ 営林署の仕事を理解してもらうのに、大いに役立った。
- エ 写真パネルを学校やイベントで展示したり、新聞報道されたので、営林署のPRになった。

### (問題点)

- ア 作業が、屋外のため天候に左右され、日程の調整に苦慮した。

- イ 10組の親子が毎回全員揃うのは難しかった。
- ウ 山菜狩り等、レクリエーションの時期的調整に苦慮した。
- エ 実施日が、日曜日・祝日のため、担当者が大変であった。

(今後の方向)

- ア 結果的に署独自で実施したことになってしまったが、担当者が大変であり、署員の応援と、村及び森林組合の協力要請を検討し実施したい。
- イ 今回は、木祖村の小学生親子を対象としたが、奈川村へも拡大したい。
- ウ 災害保険及びレク経費の負担を今後どうするか検討したい。
- エ 今後は、3回シリーズぐらいで考えたい。
- オ 各作業とも実施箇所の選定に苦慮したが、木祖村については、村で実施している分収造林地での実施を考えたい。
- カ 自然とのふれあいを多くするため、キャンプ形式で、川遊びや木工教室を取り入れるよう検討したい。

おわりに

藪原営林署で数多く実施した行事の中で、「地域とのふれあい推進」としては、親子の体験林業は初めての試みであった。

社会科の教科書から林業の記述がなくなりましたが、関係者の努力により、13年ぶりに復活されます。机上の空論で終わる事なく実践が必要である。親の背中を見て共に汗して働く中で、林業を理解されたことと思った。今後も地域とのふれあいの場から、林業及び営林署のPRを図っていきたい。